

自戦記

応
般

蘇 耀国 (公益財団法人 日本棋院本院 / プロ棋士八段)

当初この仕事は気楽な気持ちで引き受けました。

しかし、以前電気通信大学のイベントで対戦した大橋拓文君に、Zen との九路盤の真剣勝負で一勝一敗だったという結果を聞いて、かなり衝撃を受け、少し楽観的すぎたかなと思えました。友人の張栩さんや王銘エン先生にも心配され、やはり九路盤とはいえプロ棋士が人工頭脳に負けるということは、新しい時代の幕開けという

風に捉えられかねないので、色々な意味でプレッシャーのかかる対局になりました。

大橋君が Zen について一番詳しい棋士だったので、彼から情報を得て、一力遼君とも一緒に話し合い事前に研究を重ねました。

本番当日、研究をしたとはいえやはりそれほど自信はありませんでした。一人2局打てるので、僕は一勝一敗でも十分という気持ちで対局に臨みました。いよいよ対局開始、先陣を切るのは若い一力君。彼の黒番で対局がスタートしました。彼もかなり緊張していて、Zen は白番が得意という情報があったので、1局目はかなり苦戦するのではないかと、という懸念がありました。

対局が始まり、予想が的中し、序盤からプロ棋士では予想できないような手、思いつかないようなとても良い妙手をどんどん打たれ、一力君の局面がどんどん苦しくなり、この対局は敗戦を覚悟しました。しかしあるところで、Zen が絶対的優勢で、かつ決め手がいくつもあったように思える場面で、意外なことに Zen は自分の地のの中の手筋を読み落としました。

それがたまたま逆転に繋がりました。収集した情報では、Zen は読みの力にはかなりの精度があると思っていたので、コンピュータもそういうミスをするのかととても驚きました。

続いて大橋君。終盤の難しい局面で、また読みの場面で Zen がミス、大橋君が勝利しました。この2局を見て、3人とも同じ考えに至ったのだと思います。局面

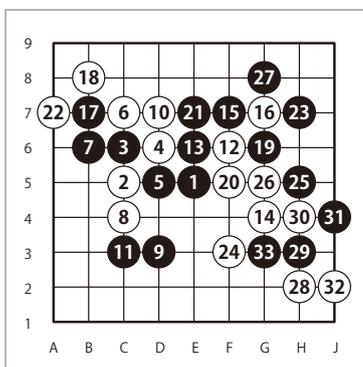


図-1 第3局(黒:蘇八段、白:Zen)の総譜

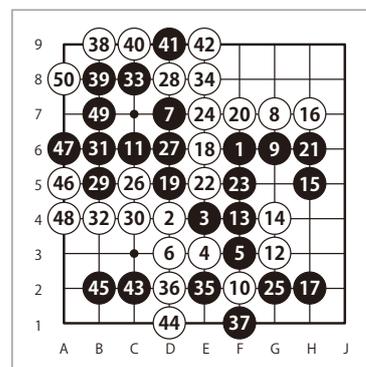


図-2 第6局(白:蘇八段、黒:Zen)の総譜

を複雑にすると Zen が読み落としてくれる可能性があるのではということです。普通に打つよりもあえて局面を難しくした方が勝つ確率が上がるのではと考えました。

3局目は私との対戦です。序盤で予想外の好手を打たれ、あっという間に局面が苦しくなりました。しかし作戦通りに、色々なところに変化を残し(人間相手なら通用しない打ち方ですが)複雑にしたところ、Zen にどういった読み間違いがあったか分かりませんが、予想通りに間違えてくれて、驚くほどの簡単なミスを犯したため、勝利することができました(図-1)。

最終局の私の白番では普通に打ち、はっきり悪いような局面はないまま終わりました(図-2)。

Zen が強さを発揮する白番のときは、局面を難しくすると、理由は分かりませんが Zen がミスをしてくれたので、運よく今回は全勝することができました。しかし局後は複雑な心境でした。実力ではなかなか簡単には勝てないように思えるところを、実力以外の作戦で勝ってしまったからです。

もし、また対戦する機会があれば、もう少し九路盤の研究をして、実力で勝ちたいと思います。

(2012年12月9日受付)

● 蘇耀国

昭和54年9月11日生まれ。中国広州市出身。平成6年入段、17年八段。日本棋院東京本院所属。第28期新人王戦優勝。本因坊リーグ通算5期在籍。第62期本因坊戦挑戦者決定戦進出。平成13～21年中国リーグ参加。

ミニ特集 コンピュータ囲碁の最前線〜九路盤囲碁のイベントから〜